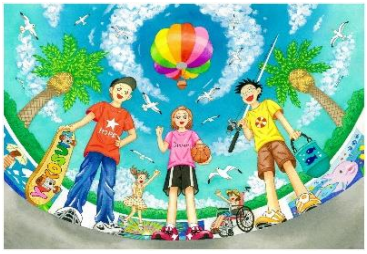
月刊

あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり

2022/11/10 横須賀市教育委員会



11月号

策定に関わった方の思い「社会教育の視点」

前号に続き、計画の策定に関わった「横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会」の皆さまそれぞれの「横須賀の目指す教育の姿」への思いや、検討を振り返ってお寄せいただいたコメントをご紹介します。

梨本加菜　委員

鎌倉女子大学児童学部
教授

幅広い視野を持った教育環境全体のビジョンに

横須賀には素晴らしい博物館や図書館、美術館があります。生涯学習センターをはじめ各地域のコミュニティセンターでは、市民による活発な学習活動が行われています。また横須賀は、日本の近代をかたちづくった文化遺産が特筆されます。これらの社会教育に関わる多様な施設や文化遺産は今の生活に直結していて、横須賀の教育環境をとてもボリュームあるものにしています。

千代ヶ崎
砲台跡

これまで教育振興計画で二つに分かれていた学校教育編と社会教育編を、新しい計画では一つに合わせることになり、子どもを含む市民の学習を支える横須賀の教育環境全体のビジョンを示すことになりました。

私は社会教育委員として横須賀市と関わってきましたので、新しく策定される「目指す教育の姿」に、横須賀の誇る社会教育の施設と文化遺産をどのようにバックアップするかという視点を含めることは必要だと考えました。

このたびの会議では委員の皆さんの活発な意見をいただくことができ、学校教育と社会教育をつないでいくことで、市民が生涯を通じて学んでいける教育環境を整える視点をもった計画ができたのではないかと思っています。

この計画を「好き」になり、伝えていきたい

全５回の会議を通して、委員の皆さんや教育委員会の皆さんの横須賀の教育への強い思いが伝わってきました。唯一の対面会議となった最後の会議に私はリモート参加となり、皆さんに直接お目にかかれず残念です。

これも残念なことですが、新型コロナウイルス感染症対策のために、博物館などの社会教育施設は休館や事業の縮小を余儀なくされることが多々ありました。横須賀の豊かな文化遺産や施設を見に行き、皆さんと再び意見を交わせる日が来ることを楽しみにしております。今後もさまざまな場で、生涯にわたった学びを支援する計画が実現されることを願っています。

渡辺孝夫　委員

横須賀市社会教育委員

学ぶ喜びを感じられる人に

新しい計画では、横須賀で暮らす人づくり、横須賀で暮らす人の教育というように捉えるとよいのかなと思いました。そして、未来を切り拓く、希望をもって、社会に役立つ人間となる、自らを愛し、共に暮らす人を大切に思う気持ちや互いに助け合い、支え合う人になる、ということが必要だと思いました。

もうひとつ、人口減少と超高齢社会、人生100年時代と言われる中で、教育は何かと問うたとき、学びを保障する、生涯にわたって学ぶ喜びを感じられる、横須賀の教育は子どもから高齢者まで学ぶ喜びを感じられる、ということだと思います。健康で生きがいを感じられ、学ぶ意欲が自然に湧いてくる、そんな喜びを一緒に感じられる、学びを誘い合える人になるということだと思います。

生涯にわたる教育に、軸足が少し向いた

今回の計画は、前回までの計画とは大きく変わったような気がします。学校教育に重点を置いた子どもの成長のための計画から、多くの委員の皆さんからも賛成の声があった、生涯にわたる教育に軸足が少し向いたような気がします。

「現状と課題」や「指標」の部分において、私は社会教育的な見方から意見を述べました。受け入れてもらえない部分もありましたが、こんな意見があったということを記録に残してもらえたことは、無駄ではなかったと思っています。

特に社会教育の分野では、全国的に施設や事務の所管が教育委員会から市長部局へ移管されるという中で、学ぶことの保障や学習する権利といったことを計画の中に垣間見ることができたことは、うれしく思っています。

これからの子どもや、成人式を迎え大人の仲間入りをした若い人たちを含めて、自分たちの暮らす所に誇りを持てるようになればよいと思います。

次号「策定に関わった方の思い（教育研究家の視点）」へ続く

Topic

＼ 愛読プラン ／

横須賀市子ども読書活動推進計画

子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、本市における子どもの読書活動の推進の状況などを踏まえた施策を定める計画です。

第１次計画ではブックスタート事業の開始やおはなし会、第２次計画では学校図書館に関する取り組みの充実などに重点を置き、第３次計画では３歳児健康診査時のブックリストの配布開始や学校配送便の新設などの成果を上げることができました。

令和４年度からの第４次計画では、「子ども自らが本と出会い・楽しみ・学ぶ、豊かな読書活動の推進」という目標のもと、子どもの発達段階ごとに目標と重点を掲げ、一人一人の子どもを取り巻く状況や個性に応じた、子ども読書活動の更なる推進を図ることとしています。